

行政視察報告書

令和6年 11月 1日

長浜市議会議長 高山 亨 様

長浜市議会議員 中川 リョウ

私が出席した次の行政視察の結果について報告します。

記

1. 視察等名 新しい風 会派視察研修
2. 視察期間 令和6年10月7日（月）～10月9日（水）
3. 視察場所及び目的
 - ①兵庫県丹波市
「兵庫県立丹波医療センターについて」
 - ②島根県出雲市
「出雲市の新エネルギー施策について」
 - ③島根県松江市
「中心市街地活性化事業について」
4. 調査内容感想等

① 兵庫県丹波市

「兵庫県立丹波医療センターについて」

兵庫県立丹波医療センターは、県立柏原病院と柏原赤十字病院の統合再編によって誕生した県内有数の地域中核病院です。新臨床医制度の導入により医師不足が顕著化し、両病院の経営が悪化したことが統合の主要因となりました。県が主導権を持って再編を進めた結果、日本赤十字社は事実上撤退し、県営病院としての新たなスタートを切っています。

新病院の建設費用は、県が病院事業債を活用し、丹波市は市の施設部分を負担しましたが、国庫補助金は活用されませんでした。統合に伴う財務調整は県が主体的に実施し、赤十字病院の負債は同法人内で清算されるなど、スムーズな移行が

図られました。

医療機器については、増設された診療科に合わせて新規購入を行い、既存の設備は継続活用する方針をとっています。医師派遣では、神戸大学との強力な連携体制が敷かれており、県の派遣制度も活用することで地域の医療ニーズに対応しています。医療従事者の移行も円滑に進み、希望者全員が新病院に受け入れられました。

統合後は、回復期病床や在宅医療、予防医療機能を継承し、隣接する「丹波市健康センターミルネ」との連携を強化。ミルネは検診や福祉医療を担う拠点としての役割を果たし、地域包括ケアシステムの中核を担っています。

再編時には人事交流、運営体制の確立、医療機器導入など多くの課題がありましたが、協議会を中心に慎重かつ緻密な調整を重ねることで解決に至りました。

地域医療構想に基づく機能分担では、新病院が中核病院として高度専門医療、三次救急医療を担い、循環器系診療の強化にも力を入れています。しかし、新病院建設費の償却が経営に大きく影響し、直近では約 8 億円の赤字を計上。経営改善には人件費や物価の管理、病床利用率向上が不可欠です。

2040 年の高齢者人口ピークを見据えた将来構想も検討中であり、専門医療と急性期医療の充実が重要課題とされています。長浜市の病院再編においても、丹波医療センターの経験を活用し、経営一体化や人員管理、医療機能分化を慎重に進めていくことが求められます。

②島根県出雲市

「出雲市の新エネルギー施策について」

出雲市は「ゼロカーボンシティ」の実現を掲げ、脱炭素社会の構築に積極的に取り組んでいます。市議会副議長の児玉俊雄氏によれば、「ゼロカーボン」とは温室効果ガス排出を実質ゼロにすることであり、排出量と森林などによる吸収量の相殺を通じて目標を達成するものです。

環境総合計画では、新エネルギー対策、再生可能エネルギーの普及、次世代自動車導入、豊かな森林づくりなど多角的な施策を展開。CO2 削減目標の設定や推進策が体系的に組み込まれています。

出雲市は地域新電力会社「出雲縁結び電力株式会社」を設立し、地元の再生可能エネルギーを地産地消するモデルを推進。市やJFE、エネルギーソリューション、山陰合同銀行が共同出資し、市は10%を出資しています。事業は公共施設向け電力供給が主体で、廃棄物焼却発電と太陽光を活用。約6200世帯分の電力を供給し、ボイラー蒸気を利用したタービン発電で自家発電機能も備えています。経営は立ち上げ期に赤字がありましたが、2期目以降黒字転換を果たしました。課題としては電源の確保が困難で、市外供給拡大に向けた電源競争が激化していることが挙げられます。ヨウ素太陽光発電など新技術導入も計画されており、持続可能なエネルギー供給の実現に向けた工夫が続きます。

観光面では、風力発電所や木質ボイラー、灯台を核にした「次世代エネルギーパーク」が整備され、環境学習や地域観光の拠点として機能。カーボンクレジット取引も活発化しています。

一方で、環境人材育成や地域貢献活動はまだ不十分であり、教育面や地域社会への啓発・参画の促進が今後の課題です。地域経済活性化と環境保全を両立させるため、市のリーダーシップが不可欠であると感じられました。

③島根県松江市

「中心市街地活性化事業について」

松江市は歴史的文化資源と宍道湖の水辺空間を活かし、魅力ある都市空間の形成と若者を中心とした地域活性化を推進しています。約275haを対象にした第3期中心市街地活性化計画は、内閣府認定のもと、歴史的建造物の活用や水辺の賑わい創出に焦点を当てています。

既存建物を活用した「カラコロ工房」は、観光客だけでなく地元市民の交流拠点として機能し、職人商店街構想は伝統技術の体験や地域産品販売を通じた商業活性化を目指します。チャレンジショップ支援や創業支援の件数は増加傾向にあり、創業環境の整備が進んでいます。

水辺空間では芝生広場の活用や親水施設の整備、季節ごとのイベント開催により、住民参加型の賑わいづくりを推進。ただし、市民の利用率向上や周知徹底は今後の課題です。

歴史文化の活用では、古民家の高付加価値化や地元ブランドの育成に取り組み、夜間の賑わい創出イベントも展開されています。都市再生推進法人「まつくる」は、市民主体のイベント運営や環境配慮型交通の実証実験を実施し、持続可能なまちづくりの担い手として機能しています。

コロナ禍以降の観光客減少や滞在時間短縮、人口減少など複合的な課題に直面し、地域の競争力強化と集客力向上が喫緊の課題です。

2030年を目標とした観光戦略プランでは、観光消費額750億円、観光入込客1100万人を目指し、宿泊税導入やMICE誘致、インバウンド拡大など多角的施策を推進。マーケティング戦略にも力を入れ、地域全体のブランド力向上に努めています。

また、不動産オーナーと創業希望者を結びつける「建物ぐるり」など、新たな地域連携の試みが進行中です。これらの取り組みは、今後の松江市中心市街地活性化の礎となることが期待されます。

まとめ

今回の兵庫県丹波市、島根県出雲市、松江市の三か所における視察を通じて、それぞれの自治体が抱える地域課題と、その解決に向けた先進的かつ具体的な取り組みを学ぶことができました。

丹波医療センターの事例では、医療機関の統合再編を通じた地域医療の機能強化と経営改善の両立、関係機関との連携による人材確保の工夫が印象的でした。長浜市の病院再編においても、医療機能の明確な分担や人事交流の円滑化、経営面の課題克服において大いに参考となるものでした。

出雲市の新エネルギー施策は、地域内で生産された再生可能エネルギーの地産地消を促進し、脱炭素社会実現に向けた地域一体の取り組みが進められている点
が特徴的です。長浜市においても再生可能エネルギーの導入拡大や環境意識の醸成、地域経済と環境保全を両立させる施策の推進に活かしていくことが求められます。

松江市の中心市街地活性化事業では、歴史文化資源の活用や水辺空間の賑わい創出、若者や創業者支援を通じて地域の魅力向上を図る多角的な施策が展開さ

れていました。長浜市のまちづくりにおいても、空き家活用や地域文化の発信、市民参画型のイベント開催など、地域資源を最大限に活用した活性化策を強化すべきであると感じました。

今後の長浜市行政運営においては、今回の視察で得た知見を踏まえ、以下の点を重点的に取り組むことが重要です。

■地域医療の連携強化と経営改善策の推進

病院再編の推進に際しては、多様な医療機関や専門機関との連携体制を確立し、人材確保や医療機能の最適化を図るとともに、財政面での持続可能性を追求します。

■脱炭素・再生可能エネルギーの普及拡大

地域新電力の設立や再エネ地産地消の推進を検討し、行政と民間が協働する体制の構築により、環境負荷低減と地域経済活性化の両立を目指します。

■地域資源を活用したまちづくりと市民参加の促進

文化・歴史資源や自然環境を活かした観光振興や商業活性化策を展開し、若者や創業者を支援するプログラムの充実、市民が主体的に関わる地域コミュニティづくりを推進します。

これらの課題に対して、視察先自治体の成功事例と課題解決策を参考にしながら、長浜市ならではの特色を活かした施策を具体的に策定し、実行してまいります。